



2008年5月発行

# 大分市・アベイロ市姉妹都市提携30周年記念号



アベイロ市全景



アベイロ市内

# O B R I G A D A

オブリガーダ

「オブリガーダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう(女性が言う場合)」の意味です。

大分・日本ポルトガル協会

〒870-8504 大分市荷揚町2-31 大分市国際化推進室内  
(TEL097-537-5719 FAX 097-536-4044)

大分市とアベイロ市は、姉妹都市を提携し、今年30周年を迎えます。大分がポルトガルとゆかりのある都市であることと、アベイロが海岸に面し、観光・商業都市で類似点も多い都市でありましたことから、1978年10月に姉妹都市の提携を行いました。

これまで、親善訪問団の相互派遣や文化芸術交流、医療交流などを通じ、両市民の相互理解を深め、友好の絆を強めてきました。

今回は、これまでの交流事業や活動、そして、平成19年度に本協会が実施した事業について、お伝えいたします。また、ポルトガルの文化についても、お届けいたします。

# OITA・AVEIRO姉妹都市提携30周年

ここでは、これまでの主な出来事をご紹介します。

1977年10月5日(昭和52年)

大分日本ポルトガル協会発足。おかげを持ちまして、2007年で発足30年を迎えました。

1978年10月10日(昭和53年)

姉妹都市提携を結ぶ。

市長を団長とする姉妹都市提携訪問団がアベイロ市を訪問。当時の佐藤益美大分市長とジョゼ・ペレイラアベイロ市長が姉妹都市提携共同宣言に署名しました。



姉妹都市提携記念バス乗車券。  
大分交通・大分バスが発行しました。



記念品

姉妹都市提携記念にアベイロ市より贈られたビスタ・アレグレ社製の壺。「大分」の文字と大分の風景が描かれています。その他にもそれぞれの文化を象徴するものを相互に交換し、現在も大切に保管されています。



ガレリア竹町にある、日本ポルトガル友好450周年を記念して建設されたポルトガル帆船。周囲の外壁にはアベイロ市のアズレージョタイルが使用されています。

1993年(平成5年)9月～10月

日本ポルトガル友好450周年記念事業開催。

大分でも「フェスタポルトガル - 大航海ロマンと宗麟の夢」と題した記念事業が行われ、県内各地でポルトガルに関するイベントが行われました。当時のソアレスポルトガル大統領夫妻も来県され、歓迎式典や記念植樹に参加されました。また、神楽や野点を楽しまれるなど、日本の文化に親しまれ、多くの市民の皆さんと交流されました。同年1月には、大分市民合唱団ウイステリア・コールがアベイロ市を訪問し、現地の合唱団とのジョイントコンサートなどを行い、合唱を通してアベイロ市をはじめとする多くのポルトガルの皆さんとの交流を深めました。



記念植樹を行う大統領夫妻。

そのほかにも、1988年(昭和63年)の姉妹都市提携10周年記念時には、ペレイラアベイロ市長が来市され、記念講演を行いました。また、つるさき踊り保存会や茶道表千家グループがアベイロ市を訪問し、文化芸術交流を行うなど、民間交流も行われています。

平成19年度に行われた事業を紹介いたします。

## ♪コインブラ大学OB合唱団大分公演2007♪



10月18日(木)19時より、大分市コンパルホールにてコインブラ大学 OB 合唱団が日葡親善公演を行いました。当合唱団は、本場ヨーロッパで高い評価を受ける男性コーラスグループです。市内の吹奏楽団とのジョイントを行うなど、大盛況の公演となりました。公演後には歓迎交流会が開催され、交流を深めました。交流会後も大分での夜を満喫され、翌朝、大分を発たれました。



Muito Bom!!

歓迎会の様子



(PM12時頃)



カラオケを楽しむメンバー(AM3時頃)

## ★第2回・第3回シャムスカ監督と語ろうポルトガル語講座★

大分トリニータ後援会のご協力をいただき、第2回及び第3回シャムスカ監督と語ろうポルトガル語講座(全8回)を開講しました。2006年10月から12月に開催された第1回講座が受講生から好評であったため、前回同様、大分トリニータ育成部 U-12コーチのリシャルドソン・マガリエンス氏を講師に迎え、実施したものです。計70名の受講生が熱心に受講し、音楽や映像をまじえながら楽しくポルトガル語を学びました。



### 第2回講座。

先生も受講生も真剣です。  
平均出席率は90%を超えました!

市内ブラジル料理店で『シャムスカ監督とのトークの夕べ』を開催しました。受講生の皆さんは学んだポルトガル語を駆使して思い思いに熱の入ったスピーチを行い、監督とのトークに挑戦しました。

ポルトガル語で歌います!  
監督、muito obrigada!!  
(どうもありがとう)

ファドにかかせない  
ポルトガルギターです。

## ～)Fado (ファド) ♪♪～

ファドはポルトガルの伝統的音楽の一つです。大航海時代に愛する人を海へ送り出すときの思いを歌ったものとも言われています。人生の喜びや郷愁、もの悲しさ、切なさを歌いあげます。日本の演歌に近いイメージの音楽で、世代をこえて広く愛されています。ファドの演奏にはポルトガルギターが使われます。12弦からなり、一般的なギターよりも音が高いのが特徴です。歌手では、世界的ファドの女王と呼ばれている Amalia Rodrigues (アマリア・ロドリゲス) などが有名です。観光地では、街のあらゆるところでファドが流れています。



アベイロ市の音楽ショップのファドコーナー

## ～)Vista Alegre (ヴィスタ・アレグレ)～

ポルトガル国内唯一の高級陶磁器メーカー。1924年創業。過去には日本や中国の影響を受け、絵柄に花鳥風月などの模様が描かれたものもあります。アベイロ市郊外のイリャボという小さな町に工場があり、同敷地内にはヴィスタ・アレグレの博物館もあり、同社の歴史を見ることができます。大分市にアベイロ市から贈られた陶磁器の記念品は、すべてヴィスタ・アレグレで製造されたものです。



ヴィスタ・アレグレの工場

## ～)ポルトガルサッカー～

2004年に欧州選手権が開催されるなど、サッカーはポルトガルの国民的スポーツ。現在、マンチェスターユナイテッドで大活躍しているクリスティアーノ・ロナウドはポルトガル代表選手。2004年の欧州選手権開催に合わせ、アベイロ市にもサッカースタジアムが建設されました。街のレストランや食堂では、スタッフもお客さんも、みんなが試合中継に夢中です。



エスタディオ・ムニシパル・アベイロ。観客席はとてもカラフル。

### 編集後記

これからもポルトガルの情報を色々な角度からお伝えしていきます！今年の30周年記念事業におきましても、皆さまのご支援・ご協力を、よろしくお願いいたします。